

# 「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」 の習得について (1)

## —英語圏話者と韓国語話者を比較して—

(A Study on Acquisition of 「～te ageru」 「～te kureru」 「～te morau」 in the case of English Speakers and Korean Speakers.)

韓 先 熙

### 1. はじめに

授受を表す日本語の動詞が「て」を伴って受給関係を表す時、それを動詞「やりもらい動詞」か、受給関係を表す補助動詞と言う。たとえば

- 1) おじさんは弟に自転車を買ってあげた<sup>(1)</sup>。
- 2) おじさんは弟に自転車を買ってくれた。
- 3) 弟はおじさんに自転車を買ってもらった。

のような例文であるが、この場合どれも「おじさん」は利益（恩恵）をあたえる人で、「弟」は利益をうける人である。「～てあげる」は利益をあたえる人（ここでは「おじさん」）の側から表現しているのに対し、「～てくれる」は利益をうけるものが話し手がわの人であるということが示されている。そして「～てもらう」は逆に、利益をうける人（弟）を主語とし、利益をあたえる人を対象語としている。

このように「やりもらい」の補助動詞はそのもとなる動詞の動作がだれのために行われるかを表すものである。また読者の意識がつよく現れる言い方で、「話し手の視点」というものを常に問題にする。つまり話す相手や、話の中の人物・事件を、自分側の者（内の関係）か、そうでないか（外の関係）によって言葉を使い分けている。

本研究はこのような授受動詞の構文のうち、「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」をとりあげ、英語圏の学習者と韓国語を母語とする日本語学習者を対象に、視点表現としての理解がどの程度進んでいるのか、また構文の習得はできているのかを調べたものである。

## 2. 授受表現と視点

日本語は表現に際しての、“話し手の視点”というものを常に問題にする。つまり、話す相手や、話の中の人物・事物を、自分側の者（内の関係）か、そうでないか（外の関係）によって言葉を使い分けたり、あるいは、使うことの是非まで決めて行く。

視点表現とは話し手の物理的、心理的、位置を示す表現のことである。たとえば「男の人が女の人に席を譲る」という表現は次の3通りの言い方が可能である。

- 4) 男の人が席を譲ってあげる。
- 5) 女の人が席を譲ってもらう。
- 6) 男の人が席を譲ってくれる。

「譲ってあげる」の文は、話し手が与え手である男の人の立場に身をおき、その気持になって、席を譲るという行為を捉えた文である。「譲ってもらう」と「譲ってくれる」は、受け手である女の人立場に立って述べたものである。3つの文には「席を譲る」という行為が女の人にとって恩恵であるという、話し手の価値判断が同時に表示されている。つまり、行為者である与え手の男の人の立場に立つか、受け手である女の人立場に立つかを選択し、話し手がどこに位置し、誰の気持になって事態を見ているかという、話し手の空間的、時間的、心理的位置を意味するものを「視点」<sup>(2)</sup>と言う。(4)の例の「譲ってあげる」の文では、話し手の視点は男の人寄りにあり、(5)と(6)では女の人寄りにある。「てあげる、てくれる、てもらう」などの話し手の視点を示す表現を視点表現と呼ぶ<sup>(3)</sup>。そこで、本稿では授受表現のなかでも基本的な意味を持っている構文を選び、日本語学習者を対象に視点

表現の理解と構文生成能力を調べてみることにする。

### 3. 調査の概要

調査はカナダにあるトロント大学の東アジア学部日本語学科に在学している学生（33名）と韓国のS大学の日本語日本文学科に在学している学生（71名）を対象にした。トロント大学の東アジア学部のカリキュラムは、全部136の講座が開設されており、EAS（East Asian Studies）学科に開設された講座が101で、この他の35の講座は他の学科とのつながりを持って開設されている。また、グループⅠ（語学コース）はEAS学科だけで構成されているが、グループⅡとグループⅢとレベルが上がるにつれ、段々他の学科とのつながりが拡大される。（レベル200以上から主に300、400に分布）  
グループⅠ（語学過程）+グループⅡ（主要な核心過程）+グループⅢ（専門課程） = 21+60+55 =136

韓国は学期と年数が重なるにつれ、自動的に学年が上がるが、トロント大学は学年と年数と関係なく、レベルが上位に上っている。

#### EAS（East Asian Studies）のプログラム

	専門士プログラム	主専攻者プログラム	副専攻者プログラム
履修要件	12の正規コース または同等な履修	7の正規コース または同等な履修	4の正規コース または同等な履修
1年生	EAS102Y1 東洋概論	EAS102Y1 東洋概論	EAS102Y1 東洋概論
上位 の レベル	1. 400seriesコースですくなくとも一つをとり、300/400seriesコースで四科目以上を受講。 2. グループⅠのコースで300seriesやその以上の上位科目を受講。 3. すくなくともグループⅡのコースの科目を五つ以上受講。 4. グループⅢのコースで四つ以上を必ず受講。	1. 300/400seriesコースですくなくとも二科目以上を受講。 2. グループⅠのコースで200 series やそれ以上の上位科目を受講。 3. すくなくともグループⅡのコースの科目を二つ以上受講。 4. グループⅢのコースで二つ以上を必ず受講。	1. 300/400seriesコースですくなくとも一科目以上を受講。 2. グループⅠやグループⅡまた二つのグループで三つ以上のコースを受講。 3. グループⅠのコース100seriesを一つ以上必ず受講。

トロント大学に在学している学生は英語は使っているものの英語を母語とする学生と中国語など漢字を使用する言語を母語とする学生がまざっているため、アンケート調査を行うときそれぞれの母語を調べ、英語を母語とする学生を英語話者、中国語を使用する学生を中国語話者にわけて調べた。また学習歴を調べ、1年の学生と1年の授業を修了し、2年生に在学する学生を初級に、3年と4年に在学している学生を中級にわけた。韓国の学生は1年生と2年生は日本語の学習時間が短いので対象からはずし、3年生と4年生だけを対象にした。3年生は3学期、4年生は5学期を修了した学生である。できるだけ日本語習得期間を合わせるため習得期間の違う他科からの学生は除外した。

調査は構文習得の状況を調べるために絵を提示し、指示に従い、文を完成するようにした。調査に用いた問題は『みんなの日本語』初級I本冊（スリーエーネットワーク、1998）の24課の練習問題を参考にし、10の問題を提示した。参考までにアンケートの資料をのせておく。わかりやすくするために資料の動詞は過去形に提示しておく。

\*次の質問に答えてください。

①自分にとって一番強い言語(primary language)は何ですか。

②学習歴を書いてください。

EAS 120 ( )

220 ( )

320 ( )

その他 (ex:Summer 1998)

( )

\*絵を見て「~てくれた」「~てあげた」「~てもらった」の中から一つを選んで、例のように文を作ってください。

(例) (写真を見せる)



(答え) 私は スミスさんに

写真を見せてもらった。

見せる人:スミスさん

1)(コピーを手伝う)



山田さんはトムさんに

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

手伝う人:山田さん

2)(日本語を教える)



私は小林先生に

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

教える人:小林先生

3)(電話番号を教える)



カリナさんは私に

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

4)(本を貸す)



トムさんは佐藤さんに

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

5)(絵をかく)

スミスさんはワットさんに



\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

絵をかいた人:ワットさん

6)(京都を案内する)

木村さんはスミスさんに



\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

案内する人:木村さん

7)(切手を見せる)

ワンさんは私に



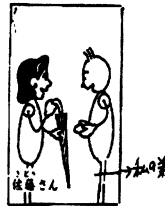
\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

見せる人:ワンさん

8)(傘を貸す)

佐藤さんは私の弟に



\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

貸す人:佐藤さん

9)(料理をつくる)

スミスさんは松本さんに



\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

つくる人:松本さん

10)(田中さんを紹介する)

トムさんはタワボンさんに



\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

紹介する人:タワボンさん

## 4. 調査結果及び考察

### 4.1 日本語のレベル別、母語別の正答率

まず全体の日本語のレベル別の正答率を見てみる。

それぞれ（英・初）は（英語話者初級）、（英・中）は（英語話者中級）、（漢・初）は（中国語話者初級）、（漢・中）は（中国語話者中級）、（韓・3）は（韓国語話者3年生）、（韓・4）は（韓国語話者4年生）の略である。

母語別に分けて全体のレベル別の平均正答率を「表1」に示す。

（表1）レベル別・母語別の平均正答率（%）

グループ	英・初	英・中	漢・初	漢・中	韓・3	韓・4	計
正答率	65.0	80.0	75.0	80.0	65.0	81.1	74.4

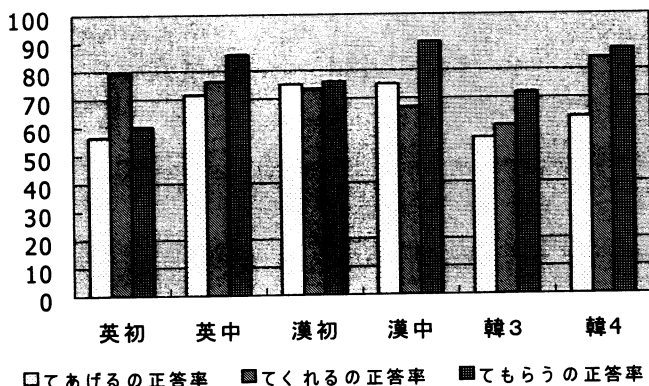
もっとも高い正答率を示しているのは韓国の4年生の81.1%であるが、英語話者の中級と中国語話者の中級が両方とも80.0%を示し、三つの学習者のグループがほぼ同じ正答率を示している。また英語話者の初級（65.0%）と中級（80.0%）への上昇率と、韓国語話者の初級（65.0%）と中級（81.1%）への上昇率はあまり変わらず、中国語話者はわずか5.0%（75.0→80.0）の上昇率を見せ、三つのグループのうちもっとも低い上昇率を示している。つまり中国語話者の場合、他の学習者より初級の時の正答率が高く、初級段階ですでに「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」の習得が進んでいたということが言える。

今回調べた補助動詞の授受表現の総正答率の平均は74.4%で、前回調べた本動詞の「あげる」「くれる」「もらう」の平均正答率80.3%より低く現れている<sup>(4)</sup>。それは、視点表現とそれに関わる授受動詞の構文は日本人でない外国人学習者にはかなり複雑なもので、本動詞の授受動詞よりは習得しにくいものということであろう。

次に母語別・項目別の正答率を見てみる。

(表2) 母語別・項目別の正答率 (%)

	～てあげるの正答率	～てくれるの正答率	～てもらうの正答率
<b>英語話者</b>			
初級 (8名)	56.3	79.2	60.0
中級 (7名)	71.4	76.2	85.7
平均正答率	63.9	77.8	72.9
<b>中国語話者</b>			
初級 (10名)	75.0	73.3	76.0
中級 (8名)	75.0	66.7	90.0
平均正答率	75.0	70.0	83.0
<b>韓国語話者</b>			
3年生 (44名)	55.7	60.0	71.9
4年生 (27名)	63.0	84.0	87.4
平均正答率	59.4	72.0	79.7
<b>全体の正答率</b>	<b>66.1</b>	<b>73.3</b>	<b>78.5</b>



(図1) 母語別・項目別の正答率 (%) (縦軸は正答率、横軸はグループを示す)

三つの項目のうち、もっとも高い正答率をみせているのは「～てもらう」で(78.5%)、その次が「～てくれる(73.3%)」、「～てあげる(66.1%)」の順になっている。普通「～てもらう」の構文は上級段階で習う文法項目で、



「視点」が主語と一致しているのに、外国人にとっては理解しにくい構文であるが、ここで高い正答率を見せていることは注目すべきことである。それについて大塚（1995）は文の主題の視点をとる表現は習得しやすく、そうでない表現（てくれる／てあげる）は習得が進みにくいと報告している。またこれについては、授受表現の難しさがかえってきめ細かい意識的な学習を促したとも考えられるが、三つのグループともに「～てもらう」の正答率ももっとも高いということは興味あることであろう。

もっとも低い正答率を見せているのは「～てあげる」である（66.1%）。そのなかでも韓国語話者がもっとも低い正答率を示している。日本語の「あげる」が韓国語の「주다」と使い方が似ているが、「～て」を伴って「～てあげる」が「～해주다」になると、その使い方と意味が多少変わるせいか、学年が上がっても正答率があまり高くない。反面韓国語話者の「～てくれる」の正答率は3年の時、60.0%だったが、4年の時は84.0%となっていて、学年が上がるにつれ、「～てくれる」の習得が進むと考えられる。英語話者の場合は韓国語話者の場合と同じく「～てあげる」より「～てくれる」の正答率が高く現れているが、ここでも目立つのは中国語話者の「～てくれる」の正答率である。「～てあげる」より平均正答率が低く、それに初級の時は73.3%だったのが、中級になっても66.7%に下がっている。本動詞の調査のときも「くれる」の正答率ももっとも低かったが、ここでも同じ傾向を見せていることは、とても興味深いことである。中国語話者は「くれる」の使用を回避している傾向がみられるということだろう。これについてはまた検討すべきであるが、中国語話者には、視点が間接目的語の位置に置かれる「～てくれる」構文は習得しにくいもので、レベルが上がっても必ずしも実力が上昇しないということであろう。

## 4.2 問題別の正答率

(表3) 問題別の正答率

例 文		英・初 8(名)	英・中 7(名)	漢・初 10(名)	漢・中 8(名)	韓・3 44(名)	韓・4 27(名)	計 (%)
て あ げ る	1. 山田さんは金さんにコピーを手伝ってあげた。	50.0 (4)	71.4 (5)	60.0 (6)	62.5 (5)	61.4 (27)	63.0 (17)	61.4
	6. 木村さんはスミスさんに京都を案内してあげた。	62.5 (5)	71.4 (5)	90.0 (9)	87.5 (7)	50.0 (22)	63.0 (17)	70.7
て く れ る	3. カリナさんは私に電話番号を教えてください。	10.0 (8)	71.4 (5)	80.0 (8)	75.0 (6)	65.9 (29)	92.6 (25)	80.8
	7. ワンさんは私にきつてをみせてください。	75.0 (6)	71.4 (5)	80.0 (8)	75.0 (6)	61.4 (27)	85.2 (23)	74.7
	8. 佐藤さんは私の弟にかさをかしてくれました。	62.5 (5)	85.7 (6)	60.0 (6)	50.0 (4)	52.3 (23)	74.1 (20)	64.1
て も ら う	2. 私は小林先生に日本語を教えてください。	50.0 (4)	100 (7)	80.0 (8)	87.5 (7)	97.7 (43)	92.6 (25)	84.6
	4. トムさんは佐藤さんに本を貸してもらった。	50.0 (4)	85.7 (6)	70.0 (7)	100 (8)	70.5 (31)	81.5 (22)	76.3
	5. スミスさんはワットさんに絵をかいてもらった。	75.0 (6)	100 (7)	80.0 (8)	100 (8)	77.3 (34)	92.6 (25)	87.5
	9. スミスさんは松本さんに料理をつくってもらった。	50.0 (4)	57.1 (4)	80.0 (8)	75.0 (6)	54.6 (24)	85.2 (23)	67.0
	10. トムさんはタワポンさんに田中さんを紹介してもらった。	75.0 (6)	85.7 (6)	70.0 (7)	87.5 (7)	59.1 (26)	81.5 (22)	76.5
平均の正答率		65.0	80.0	75.0	80.0	65.0	81.1	74.4

例文の1、6は「～てあげる」、3、7、8は「～てくれる」2、4、5、9は「～てもらう」の問題である。それぞれ項目別に分けて問題別の正答率を示したのが(表3)である。10問のうち最も低い正答率を見せているのは「～てあげる」の1番の例文である。中級になって少しずつ上がってはいるが、学習者の半分ぐらいが間違っているといることである。

また全体の平均正答率を見ると、初級から中級にかけて正答率が上がっているが、例文ごと見るといくつか中級になっても正答率が上がらず落ちたのがある。中国語話者の場合、6番の「～てあげる」の例文(90.0%→87.5%)と、3番(80.0%→75.0%)、7番(80.0%→75.0%)、8番(60.0%→50.0%)の「～てくれる」の例文、9番(80.0%→75.0%)の「～てもらう」の例文がそれに該当する。英語話者の場合、3番(100%→71.4%)、7番(75.0%→71.4%)の「～てくれる」の例文がレベルが上になっても正答率が落ちている。

中国語話者も英語話者も主に「～てくれる」の例文で正答率が落ちる傾向を見せている。これにより「～てくれる」は他の授受動詞より視点の理解が難解で、レベルが上がってもすぐ習得できるものではないことがわかる。

他に母語別の使用状況と誤用分布は次回に譲ることにする。

## 5. おわりに

以上、英語圏の学習者と韓国語を母語とする日本語学習者を対象に、授受動詞の構文のうち、「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」をとりあげ、その習得について考えてみたが、ここでその結果をまとめる。

- 1) 日本語能力が高くなるにつれ、授受動詞の補助動詞の習得も進む。英語話者と韓国語話者の上昇率はほぼ同じだが、中国語話者の上昇率が最も低くて、中国語話者の上昇率が高く現われた本動詞の結果とは違う傾向を見せている。
- 2) 全体の正答率は本動詞のときより落ちている。(80.3%→74.4%)
- 3) 「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」のうち、「～てもらう」

の正答率ももっとも高い。「～てもらう」の構文は他の言語には存在しないので、外国人学習者には習得しにくいものと言われているが、今回の調査で三つのうち、もっとも高い正答率を見せていることはとても興味深いことである。

- 4) 母語別に見ると、英語話者と韓国語話者は「～てあげる」の正答率が低い、中国語話者は「～てくれる」の正答率が低い。
- 5) 英語話者と韓国語話者の「～てあげる」の正答率はレベルが上がると高くなったが、中国語話者は「～てあげる」の正答率はあまり変わらず、むしろ、「～てくれる」の正答率は落ちている。英語話者の「～てくれる」の正答率もわずかであるが、落ちている。本動詞の時、中国語話者の「～くれる」の上昇率が高かったこととは違う結果を見せ、補助動詞の習得の難しさがうかがわれる。

#### 注

- (1) 『日本語文法・形態論 (むぎ書房)』の例文を参考にする。
- (2) 澤田治美 (1993) 『視点と主権性—日英語動詞の分析—』ひつじ書房
- (3) 大塚純子(1995) 「中上級日本語学習者の視点表現の発達について立場志向文を中心に」、『言語文化と日本語教育』、お茶の水女子大学日本言語文化研究会
- (4) 韓先熙(2003. 12) 「「あげる」「くれる」「もらう」の使用状況の分析—英語話者と中国語話者、韓国語話者を比較して—」『日本学報』第 57 号 韓国日本学会

#### 参考文献

- 豊田豊子 (1974) 「補助動詞『やる・くれる・もらう』について」『日本語学校論集』1、東京外国語大学
- 大江三朗 (1975) 『日英語の比較研究 主観性をめぐって』南雲堂
- 久野暉 (1978) 『談話の文法』、大修館
- 堀口純子 (1979) 「年少児の受給表現」『ことばの発達』F.C. パン、堀素子 (編) 文化評論

出版

森田良行 (1980) 『基礎日本語 1・2』、角川書店

森田良行 (1981) 『日本語の発想』、冬樹社

森田良行 (2002) 『日本語文法の発想』 ひつじ書房

奥津敬一郎 (1983) 「授受表現の対照研究—日・韓・中・英の比較—」 日本語学 1983年 4  
月号

水谷信子 (1985) 『日英比較 話しことばの文法文法』 くろしお出版

大塚純子 (1995) 「中上級日本語学習者の視点表現の発達について—立場志向文を中心に—」、『言語文化と日本語教育』、お茶の水女子大学日本言語文化研究会

岡田久美 (1997) 「授受動詞の使用状況の分析—視点表現における問題点の考察—」、平成  
9年度日本語教育学会春季大会予稿集日本語教育学会

田中眞理 (1997) 「日本語学習者の視点・ヴォイスの習得—「受益文」と「視点の統一」  
を中心に」

Pro-ceedings of the 8th Conference on Second Language Research in Japan, International  
University of Japan.

韓先熙 (1998) 「「てもらう」に関する考察—韓国語表現を中心に—」 『語文学研究』 7号  
祥明大学校

韓先熙 (2003) 「「あげる」「くれる」「もらう」の使用状況の分析—英語話者と中国語話  
者、韓国語話者を比較して—」 『日本学報』 第57号 韓国日本学会

坂本正 (2000) 「日本語の授受動詞の習得—母語と第二言語を比較して—」 『日本語文化学  
報』 9号 日本文化学会

(はん そん ひー)